

1. 昔々、そう今から2000年も昔のこと、イエス様の時代に一人の女の人がおりました。この人はサマリアという地方に住んでいたのので、今では「サマリアの女」と呼ばれています。
2. 実はこの女の人、町のみんなから嫌われていたんです。この女の人が通りかかると、町のおばちゃんたちはひそひそ話し。女の方は知らん顔してますが、でも聞こえてきちゃうよね。

おばちゃん1 「ちょっとちょっと、あの女が来たわよ」

おばちゃん2 「目を合わせちゃダメよ、あの女は悪い女なのよ。」

3. おばちゃん1 「あの女、町の飲み屋街で飲んだくれていわたよ〜。もうベロンベロンになって酔っ払っちゃって、『何だー、文句あんのかー！』ってヘラヘラしながら怒鳴り散らしてたわ。噂じゃあ、あの女はそうやって毎日遊び歩いているらしいわよ。まー、汚らわしい女なことっ！」
4. おばちゃん2 「ちょっとあんた、あたしなんでもっとすごい噂を聞いちゃったわよ。あの女、超イケメンの男とディスコでフィーバーしてるっていう話よっ！まったく汚らわしいわ〜、嫌ねえ、関わらないようにしましょ〜ねえ〜。」
5. 何を言われても平気なような顔をしていたこの女の人でしたが、でも実は心の中では泣いていたのです。さびしくて、つらくって、誰かにこの気持ちを分かかってほしくて…でも素直になれなくて、いつも一人ぼっちでした。
6. この女の方は、疲れきった体と心を引きずるようにして、井戸に水を汲みにいきました。このサマリアというところは、とっても暑いところですよ。ですからみんな水を汲みに行くのは、朝や涼しくなった夕方です。でもこの女の方は誰にも会いたくないので、誰も町を歩いていない真昼間に水を汲みにいったんですね。
7. するとそこに、何とイエス様が座っているではありませんか！  
でもこの女の方が住んでいるサマリアでは、イエス様のことを知っている人など誰もおりません。もちろんこの女の方も、井戸のそばに座っているのが誰なのか知りません。  
そんな女の人を見たイエス様は、イエス様のほうから声をかけられました。イエス様は、この女の方のさびしい心、悲しみやつらさ、苦勞も何もかもご存知だったのですね。

**サマリアの女** 「私は今まで何をしても満たされませんでした。いくら水を飲んでも渴いてしまう、また水を飲んでも渴いてしまう、そんな人生でした・・・」

**イエス様** 「もう大丈夫、私はキリスト、救い主なのです。私を信じるなら、あなたの心は救いの恵みで満たされます。もう決して渴くことはありません！」

8. **サマリアの女** 「イエス様ー、ありがとうございます！私はあなたを信じます！！もう私は渴かないわ、本当の生ける水であるイエス様を信じたのだものっ！」

こうしてサマリアの女は、その喜びを町中の人たちに伝えて回ったということです。

9. 「わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渴くことはありません。」ヨハネ4:14

何か楽しいことをしたり、趣味を持ったり、スポーツも音楽もダンスも、とってもステキなことですが、それをずーっと続けることは出来ないし、楽しいことがずーっと続くわけではありません。でもイエス様の恵みと愛は、ずーっとずーっと変わらずに続いていきます、決して渴きません。

おしまい。